

古代山陽道駅家と土器埋納遺構

新田宏子

1 はじめに

古代の駅家は、古代官道沿いに日本全国で400箇所以上設けられた。その実像を明らかにすることは、古代社会における中央と地方の歴史を描く上で重要な手掛かりとなる。

兵庫県立考古博物館は平成19年の開館以降、「兵庫県内における古代官道に関する調査研究」事業を行ってきた。10年以上にわたって実施した綿密な分布調査と発掘調査の結果、兵庫県内（特に播磨国）の駅家の位置比定とその構造について徐々に明らかになってきた。

しかし、発掘調査で発見された遺構や瓦以外の遺物の検討についてはまだ不十分である。本稿は、播磨国の駅家で発見された土器埋納遺構を、古代山陽道駅家の他地域の事例とあわせて検討することで、古代の駅家における祭祀の様相と、土器埋納遺構の設置時期を明らかにすることを目的とした。

2 駅家における祭祀

古代の駅家からは、祭祀に関する様々な遺物が出土する。布勢駅家（兵庫県たつの市・小犬丸遺跡）や芦屋駅家（神戸市・深江北町遺跡）、安芸駅家（広島県府中町・下岡田遺跡）からは、多数の馬形や斎串、人形等が発見されている。

駅家での祭祀については、古代山陰道粟鹿駅（兵庫県朝来市・柴遺跡）出土の木簡から、駅家門前において呪符木簡を立てかけたという平川南による報告（平川 2009）がある。また、大平茂は粟鹿駅家と布勢駅家出土の馬形について、馬についた穢れや鬼を祓うための形代と報告した（大平 2015）。さらに、木製祭祀具を発見した遺跡の場合、馬形のほうが人形より多い場合は、近くに駅家もしくは牧が実在した確かな証拠になると述べている（大平 2020）。

本稿では、これまでに取り上げてこられなかった駅家関連遺跡で発見された土器埋納遺構に着目する。土器埋納遺構は駅家で行われた地鎮等の祭祀に伴うものとみられる。土器の埋納は、当該駅家の設置・運営時期に行われたと考えられることから、駅家の時期や変遷を考える上で重要な手掛かりとなる。

3 対象とする遺跡

本稿では、古代山陽道の駅家で出土した土器埋納遺構を取り上げる。古代山陽道沿線において、駅家は58箇所⁽¹⁾に設けられていたが、位置が比定され発掘調査が実施されているのは15駅である。

そのうち土器埋納遺構が出土した遺跡は、野磨駅（兵庫県上郡町・落地遺跡飯坂地区）、高月駅（岡山県赤磐市・馬屋遺跡）、品治駅（広島県福山市・最明寺跡南遺跡）である（第1図）。

本稿では、この3遺跡で発見された事例を取り上げ、出土位置とその内容について検討する。

4 駅家で発見された地鎮遺構

(1) 野磨駅家（第2図）

駅館院の中心に位置する瓦葺礎石建物SB600南側（正殿南約3メートル）において、地山を掘り込み、

須恵器の蓋坏が埋納されている状態で見つかった。地鎮遺構と見られ、駅館院の中心線付近に位置する。土坑の大きさは径30cmで、須恵器の杯B蓋と杯B身ののセットが組み合せて出土した。中には6片の石が入っていた。石材は白色の凝灰岩である（上郡町教育委員会 2006）。

須恵器の焼成はやや不良で径1mm以下の極小の黒色粒子を含み、播磨産の特徴を持つ。

須恵器の器形は、坏蓋は肩が落ち笠形に開きボタン状に近いつまみを持つ。坏身は底部が下がり、高台よりも張り出し器高は4.7cmでやや深い。このような特徴を持つ須恵器の窯跡は、播磨では中谷4号窯に位置づけられ、8世紀第2四半期に該当する⁽²⁾。

(2) 高月駅家（第3図）

岡山県赤磐市馬屋遺跡は、備前国府系瓦が出土したことから、高橋美久二によって高月駅家に比定された（高橋 1995）。馬屋遺跡の発掘調査では、方位を同じくする掘立柱建物群の周辺（建物4から南西に約8m）から、土器埋納遺構が発見された。土坑の大きさは約20cmで円形状である。小土坑内に、壁面・底面と隙間がない状態で蓋をされた須恵器椀が埋納されていた。須恵器の下には、5枚の和同開珎が置かれていた（岡山県教育委員会1995）⁽³⁾。

須恵器の蓋は、かえりと環状つまみを持つ器形で、身は稜椀である。金属器を模倣した須恵器のセットである。調査報告者は岡山県下では出土例がないと指摘しているが、その後佐山東山窯（岡山県備前市・亀田2018）で同様のセットの蓋椀が発見されている。しかし、その器形は高月駅出土の稜椀のほうが丸底傾向が強く、やや古いと思われる。先述した兵庫県の中谷4号窯でも、かえりと環状つまみを持つ須恵器蓋と丸底傾向の残る稜椀が出土しており、生産されていたことがわかっている。従って時期は8世紀第2四半期に位置づけられる。

(3) 品治駅家（第4図）

広島県福山市駅家町に所在する最明寺跡南遺跡は、備後国府系瓦が多量に出土したことにより、品治駅家に比定されている（高橋 1995）。

最明寺跡南遺跡の調査では、向きを同じくする掘立柱建物群のSB02柱横南西隅で埋納土坑SX4が発見された。土坑の大きさは直径約60cmであり、土坑内には、凹面を下にした平瓦が6枚交互に重ねられており、その下からやや平底ぎみの須恵器杯Gが口縁部を上にした状態で置かれていた。杯の内部には少量の炭化物が残存していたが、その種類は不明である（福山市教育委員会 2002）。

平瓦は全て凹面が布目で凸面は太い縄目タタキであり、ほぼ完形である。須恵器杯Gは1点のみで時期を判別するのは非常に困難であるが、口縁部のナデが弱くやや開き気味の器形であることから、小林1号窯（広島県三原市・広島県埋蔵文化財調査センター1984）と並行する時期の8世紀前半に位置づけられる。

5 分析・考察

3つの駅家の土器埋納遺構を比較検討すると、次のようになる。

(1) 位置

野磨駅家では駅館院内の中心部である正殿付近で土器が埋納された。

高月駅では、駅館院の範囲が確定していないため全体との位置関係は不明だが、主屋である掘立柱建

物の南西 8 m に土器埋納遺構が造られたことがわかる。建物に囲まれた空間で祭祀を行っていたことがわかった。また、品治駅では建物の柱穴のすぐ隣から土器埋納遺構が検出されており、掘立柱建物に関わる地鎮の可能性はある。

(2) 埋納物

埋納された遺物は、野磨駅（須恵器・白色凝灰岩 6 片）、高月駅（須恵器・和同開珎 5 枚）、品治駅（須恵器坏身・炭化物・瓦 6 枚）である。3 つの駅家全て須恵器坏を使って祭祀を行っている。須恵器と併せて埋める物は石であったり瓦であったり様々であるが、5～6 個の同じ種類の物を一緒に埋納している。

なお、高月駅については近隣に備前国分寺が所在し、発掘調査が実施されている（岡山県赤磐市教育委員会 2011）。備前国分寺からも奈良時代の地鎮遺構が発見されているが、埋められているのは土師器甕のみである。山陽道の駅家から出土する土器の種類は須恵器が多く土師器が少ない傾向にあるが、祭祀で使用する際も駅家と国分寺では須恵器・土師器を使い分けている可能性がある。⁽⁴⁾

(3) 時期

3 遺跡とも須恵器の時期は 8 世紀前半の枠に入り、文武朝～聖武朝の間で祭祀が行われたことがわかる。特に野磨駅と高月駅の土器埋納の実施時期は、8 世紀第 2 四半期であり、天平年間に該当する⁽⁵⁾。これらの土器埋納遺構が新しい建物建設に伴う地鎮遺構であった場合、天平に工事が実施された可能性がある。この場合、史料研究から提示されていた駅家の礎石瓦葺建物への改修時期（天平元年）と合致する。

6 まとめ

古代山陽道駅家から発見された土器埋納遺構を検討した結果、次のことがわかった。

土器埋納遺構の位置については、掘立柱建物から至近距離で埋納祭祀を行っている。駅館院の空間は広いが、土器埋納遺構の位置が建物と近い距離にあることから、土器埋納は駅家の建物に関係すると考える。

埋納物については須恵器坏を使用することは共通するが、須恵器とあわせて埋納する物は駅家によって違う。土器埋納遺構の時期は 8 世紀第 2 四半期を中心とした時期である。特に野磨駅家については瓦葺建物の設置にあわせて地鎮が行われた可能性が高く、礎石瓦葺建物の建設は、天平年間に実施された可能性を土器埋納遺構から読み取ることができる。

【註】

- (1) 『延喜式兵部省諸国駅伝馬条』記載の駅数（山崎駅～久爾駅間）
- (2) 森内秀造は、中谷 4 号窯産の須恵器が平城宮 SD5100 から出土していることを報告している（兵庫県教育委員会 2001）。
- (3) 坏身内土壌の脂肪酸分析の結果、内部に人間の胞衣が収められていたという意見もある。
- (4) 備前国分寺の土器出土量は、報告書を見る限り、土師器が多く須恵器が少ない傾向にある。
- (5) 但し、高月駅の調査区は瓦の出土量が少なく、駅館院本体ではなく雑舎群の可能性はある。

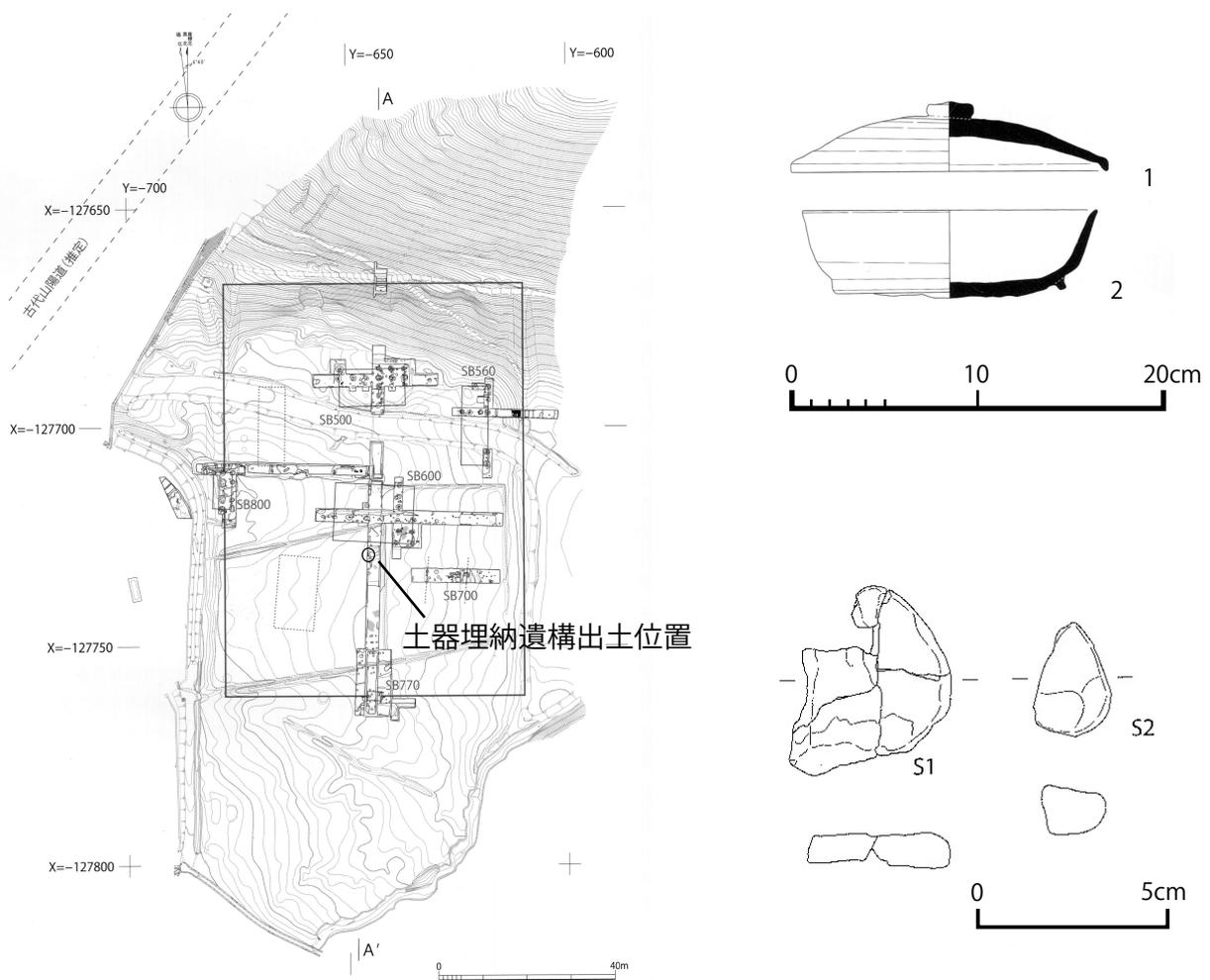
【参考文献】

- 大平茂 2015「兵庫県内の祭祀遺跡・祭祀遺物の研究成果」『ひょうご歴史研究室紀要』創刊号 兵庫県立歴史博物館
- 大平茂 2020『まつりの古代史』神戸新聞総合出版センター
- 岡山県教育委員会 1995『松尾古墳群・斎富古墳群・馬屋遺跡ほか』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告99
- 岡山県赤磐市教育委員会 2011『備前国分寺跡2』
- 小田裕樹 2016「飛鳥・奈良時代における都城土器編年の現状」『土器編年研究の現在と各時代の特徴—須恵器生産の成立から終焉まで—』考古学研究会関西例会
- 上郡町教育委員会 2006『古代山陽道野磨駅家跡』
- 亀田修一 2018「備前邑久窯跡群の須恵器甕に関する覚書」『半田山地理考古』第6号
- 神戸市教育委員会 2002『深江北町遺跡第9次』
- 神戸市教育委員会 2014『深江北町遺跡第12・14次調査』
- 古代交通研究会編 2004『日本古代道路事典』八木書店
- 高橋美久二 1995『古代交通の考古地理』
- 奈良文化財研究所 2004『駅家と在地社会』
- 平川南 2009「兵庫県朝来市山東町 柴遺跡出土木簡」『柴遺跡』兵庫県教育委員会
(財)広島県埋蔵文化財調査センター 1984『小林1号窯跡発掘調査報告』
- 兵庫県教育委員会 2000『志方窯跡群Ⅰ—中谷支群—』兵庫県文化財調査報告第203冊
- 兵庫県教育委員会 2001『志方窯跡群Ⅱ—投松支群—』兵庫県文化財調査報告第217冊
- 福山市教育委員会・福山市埋蔵文化財発掘調査団 2002『最明寺跡南遺跡』
- 府中町教育委員会 2020『下岡田遺跡発掘調査報告書Ⅰ』

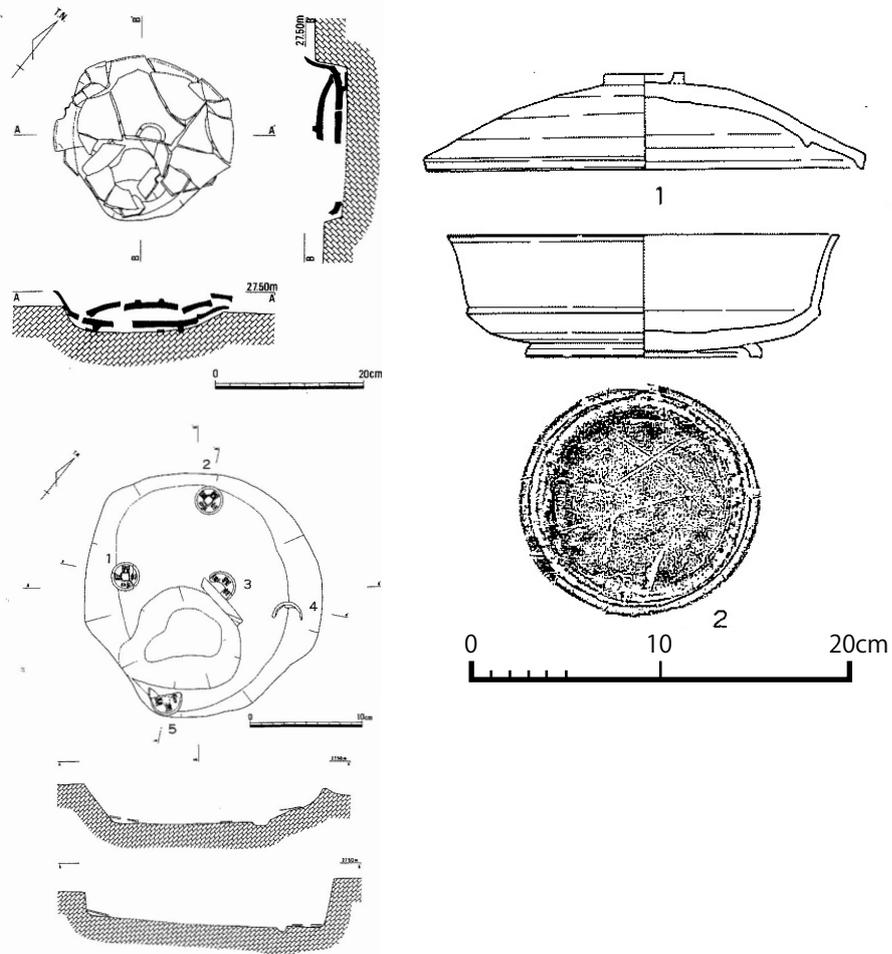


国土地理院地図・古代交通研究会『日本古代道路事典』2004 をもとに作成

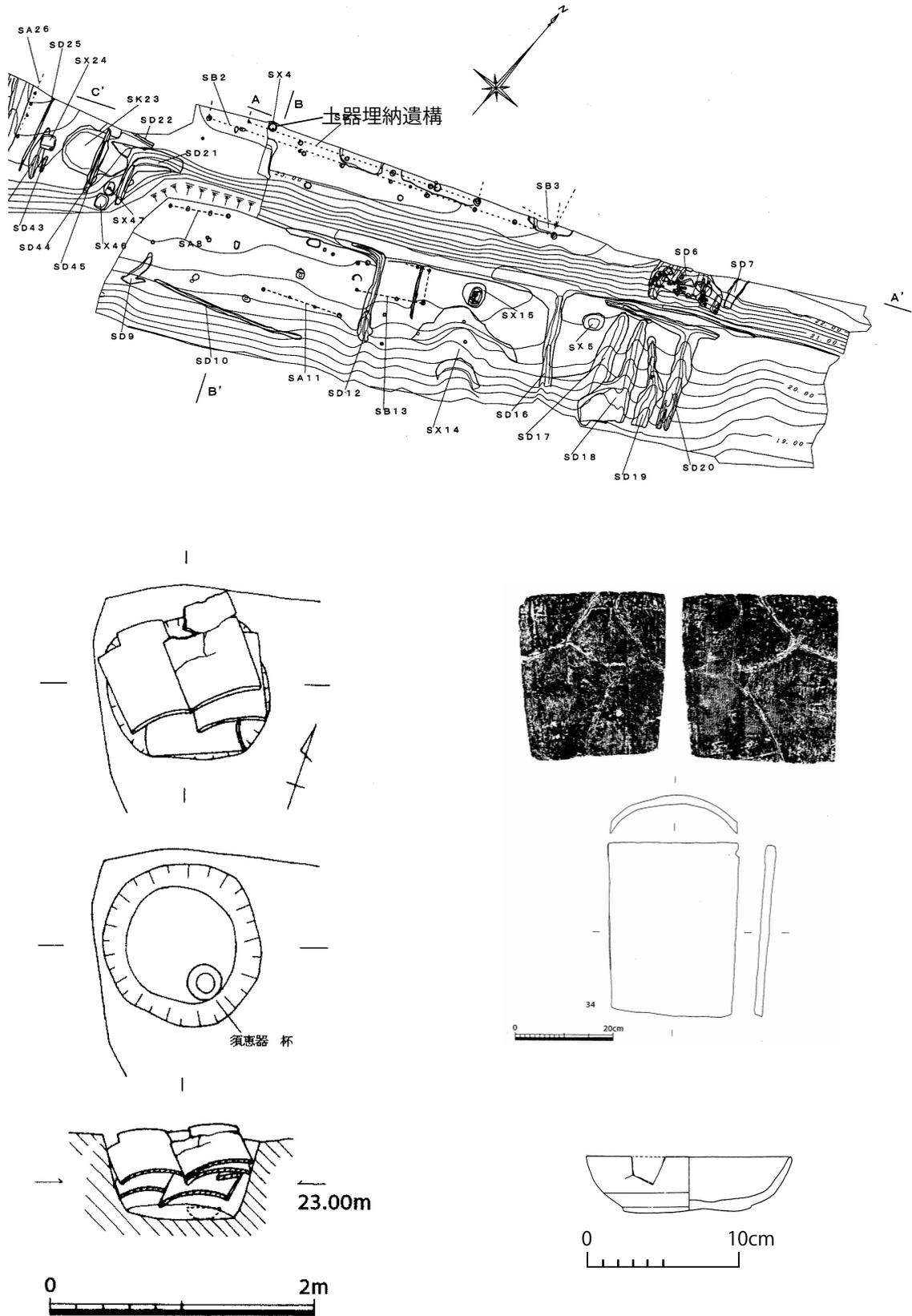
第1図 本稿に関わる遺跡地図



第2図 野磨駅で発見された土器埋納遺構出土遺物（上郡町教育委員会 2006）



第3図 高月駅家(岡山県赤磐市・馬屋遺跡)で発見された土器埋納遺構



第4図 品治駅家（広島県福山市・最明寺跡南遺跡）で発見された土器埋納遺構